

田原坂

年刊
Tabaruzaka
Vol.11

特集 田原坂公園へ行こう！

―西南戦争を考古学する―

田原坂公園は薩摩軍の本丸だった

土にめり込んだ

砲弾片の意味

塹壕から検出された
「植物珪酸体」とは？

新しく生きよう。

NEO ONE
KUMAMOTO

特集 田原坂公園へ行こう！

——西南戦争を考古する——

西南戦争遺跡。西南戦争と遺跡？・・・

聞き慣れないかもしれないが、西南戦争の様々な痕跡を物質文化として捉え、それを考古学的に解明しようとして試みた時、生まれた言葉である。

そもそも考古学とは、地下の埋蔵文化財だけでなく、あらゆるモノを対象として、その背景にある社会・歴史事象を解明する学問である。

近代の「モノ」ながら西南戦争の戦跡もその対象となる。

熊本市は、三月四（二〇）日に展開された田原坂の戦いの戦跡について学術調査を続け、平成二五年には「我が国の近代史を理解する上で、欠くことができない遺跡である」などとして国史跡の指定を受けた。

この学術調査のなかで、文献・写真資料や伝聞だけでは判らなかった、生々しい戦いの様子が見えてきた。

今号では、田原坂公園での調査成果を紹介する。読者の皆さまには、本書を携え、改めて田原坂公園を訪れていただきたい。

「田原坂公園へ行こう！」

田原坂公園検出の小銃弾

調査の方法

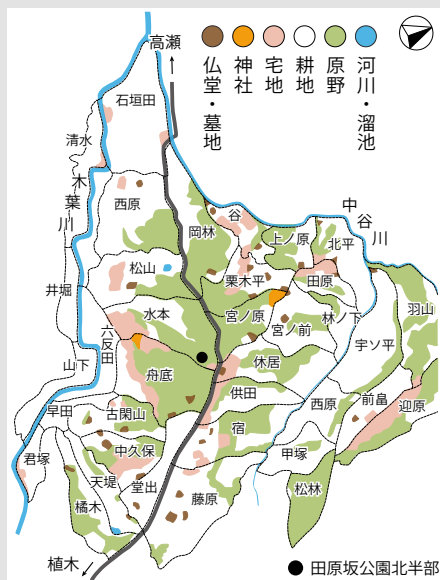


金属探知機により銃砲弾などの金属遺物を検出し、その位置を記録する。



地形や遺物の分布状況を勘案してトレンチ（溝状の掘削坑）を選定、掘り下げる。塹壕などの遺構を検出、記録をとる。

田原坂公園北半は薩摩軍本丸



明治初年の豊岡台地（豊岡村）

※耕地や宅地が多く、三池往還などの道路も整備されている。薩摩軍にとっては・・・

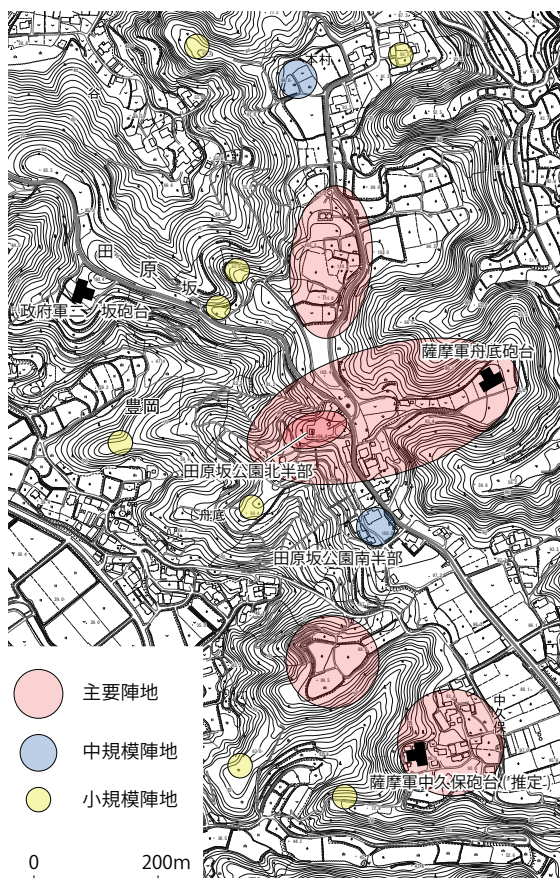
- 兵員移動・物資輸送に適する。
- 住民が避難退去した家屋も利用できる。
- 段畑や畦土手を利用して胸壁陣地とすることができる。

現田原坂公園北半部はその中央に位置する。

田原坂の戦いで薩摩軍が蟠踞した豊岡台地。田原坂公園の北半部は・・・

- 台地の中央部、田原坂を登りきった位置にあつて、北に延びる間道と交差する。
- 西側に突き出した地形で、谷を隔てた約1kmに政府軍の拠点、二俣台地を望む。
- 政府軍兵は台地の西側斜面を駆け上がってくる。

主要道を押さえる地にして最前線。まさに最重要陣地——本丸であつた。



豊岡台地における薩摩軍の布陣推定図



政府軍の「目」
※政府軍の主要拠点、二俣瓜生田砲台跡から東方の豊岡台地を望む。

薩摩軍の「目」
※田原坂公園北半部から田原坂（三ノ坂）を見下ろす。手前の小支谷から政府軍が駆け上がってきた。



田原坂公園北半部から西方の政府軍拠点、二俣台地を望む。
※薩摩軍の最重要陣地。西に張り出した高所で、古記録にある「舟底山」は字名（舟底）からこの地を指すとみられる。

遺物の検出状況



エンフィールド雷管



スペンサー薬莖



スナイドル薬莖



霰弾子（砲弾内の鉛玉）



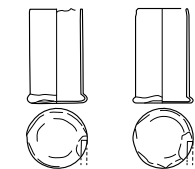
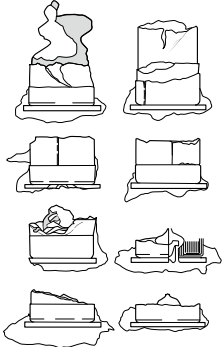
スナイドル銃弾 ※衝撃で潰れる



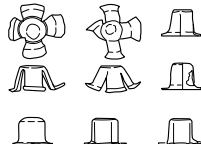
スナイドル銃弾

上図は、検出された遺物の分布状況。
東側の美少年像や崇烈碑周辺は、公園造成工事のためであろう、遺物は少ない。
西側斜面は旧地形が残っており遺物が多い。主なものは小銃弾で、その殆どは政府軍が発射したものと考えられる。
注目されるのは、南西側の塹壕跡周辺で多く検出された火点（発射地点）を示すスナイドル薬莖。同所からはスナイドル未使用弾も検出され、「薩摩軍は旧式銃で戦った」という従来の説を覆す成果となった。

スナイドル葉莢

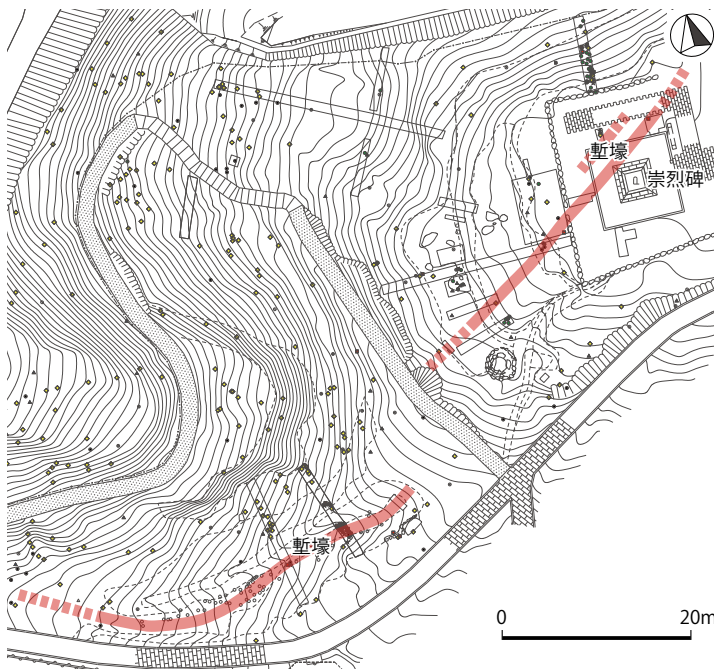


エンフィールド葉莢



0 4 cm

塹壕出土遺物実測図

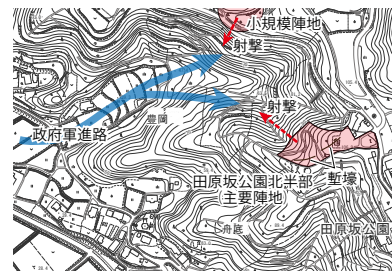


薩摩軍の塹壕

西方に突き出す尾根筋に沿うように、東西方向の浅い溝が数条検出された。南西側では、埋まりきらずに現在でも溝状の窪みが残っている。これらは、薩摩軍が踏み分け道などを再利用して構築した塹壕である。南西側の塹壕にトレンチを設けて掘り下げたところ、火点（発射地点）を示す小銃弾の葉莢・雷管などが出土した。塹壕に身を隠しながら、駆け上がってくる政府軍兵を銃撃したことを示すものであろう。



南西側塹壕のトレンチ



駆け上がってくる政府軍の進路想定

北東側塹壕（崇烈碑付近）



南西側トレンチの遺物出土状況
※黄:小銃弾, 赤:葉莢, 薄青:雷管



南西側塹壕の現状
※溝状の窪みが残る。



北東側塹壕の土層断面
※発掘調査は土層観察が重要。掘り下げ時にはベルト（土手）を残し、その壁面の土質を詳細に観察して線を引き、どのように掘り込まれ、埋まったのかを確認した。



正面

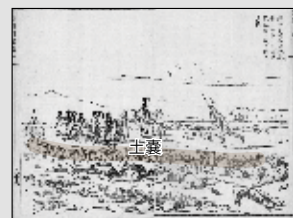


側面

イネの植物珪酸体（プラント・オパール）
※塹壕内の土を自然科学分析にかけたところ、多量のイネの植物珪酸体＝腐植せずに残ったガラス質の微化石が検出された。
溝に沿って積んでいた稲藁製品（土嚢）が埋没する過程で崩れ、落ち込んだためと考えられる。
薩摩軍は、稲藁土嚢を積んだ胸壁陣地を築いていた可能性が極めて高い。

古写真に見る塹壕（今回成果の裏付け）

※下は薩摩軍七本柿木台場の塹壕。土嚢を積んで胸壁としている。右上は同地を描いた『従征日記』3月20日挿図（色塗り部が土嚢）。右下は玉東町木葉の政府軍塹壕。政府軍の胸壁は竹筒形の堡籠を用いている。



激戦を生々しく伝える資料

薩摩兵の仮埋葬土坑



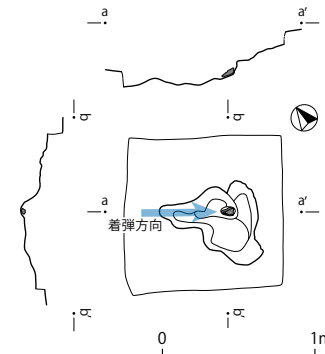
仮埋葬土坑



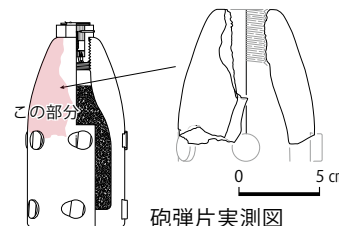
仮埋葬土坑・砲弾片着弾痕の位置

砲弾片着弾痕

六四×五五cmの不定形の窪みから四斤砲弾片が検出された。
○砲弾片は西側から幅約九〜一六cm・長さ約五二cmの溝状に土を抉りとして、その突き当たりに位置している。
○砲弾片の背後（東側）の埋没土は、地山と類似するものの、硬い地山とは異なっており、着弾の衝撃による破砕土とみられる。
近くに着弾、破裂した破片が地山にめり込んだもので、二俣台地あるいは二ノ坂の政府軍砲台から撃ち込まれたとみられる。

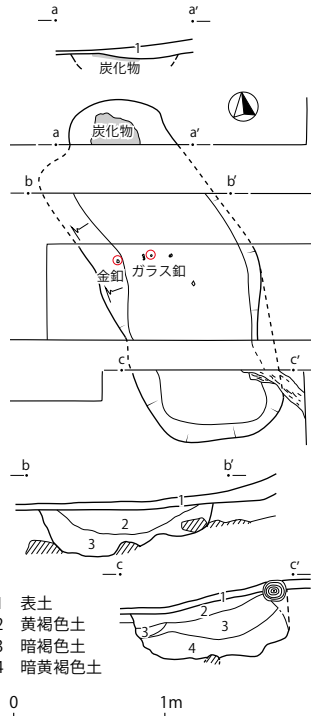


砲弾片着弾痕実測図



砲弾片実測図

長さ二・四三m、幅一・〇三mの土坑（掘り込み）。



仮埋葬土坑実測図

※a-a' ~ c-c' は土層断面

- 1 表土
- 2 黄褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 暗黄褐色土

様々な弾痕



激戦の証人 大楠



墓石の弾痕

※着弾の衝撃で爆ぜている。左下は砲弾痕か。



出土した釦

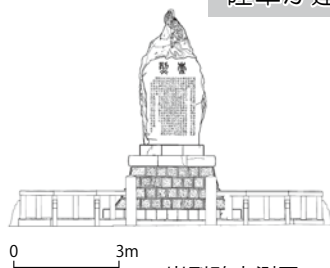
※左の金釦（金メッキ）はかつて政府に出仕していたときに薩摩軍隊長クラスが着ていた制服の釦か。



以上より、この土坑は戦場で薩摩軍の死者を仮埋葬したものと考えられる。釦は着衣から外れ、改葬の際に取りこぼしたものであろう。
坑内の土からはイネの植物珪酸体が多量に検出され、遺体を延などで覆っていたと考えられる。
なお、現状は上部が削平されており、本来の深さは1m以上あったと推測される。

崇烈碑

陸軍が建設主体となった碑



崇烈碑実測図



明治時代の絵葉書
※名所葉書として販売された。



崇烈碑は明治十三年（一八八〇）、田原坂の戦いの成果を顕彰し、政府軍戦死者を慰霊するために建設された。薩摩軍の主要拠点であり、戦場一帯を見渡せるこの場所が選ばれたことにも意義があったと考えられる。明治陸軍が建設主体となった西南戦争碑としては唯一のもので、篆額と撰文は征討軍総督有栖川宮による。石材は八代産の石灰岩である。江戸時代の藩による規制が無くなって使用された白く輝くそれは、新時代の到来、新政府の正当性を示すものであった。

八代産石灰岩採用の経緯

※崇烈碑以前にも明治陸軍が関与し、八代産石灰岩製とみられる事例がある。



佐賀市乾亨院



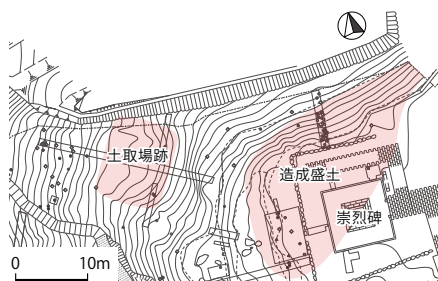
久留米市山川招魂社

※ともに明治7年の佐賀の乱戦死者墓石。熊本鎮台が主体となって制作し、基礎銘に熊本市島崎の石工が記銘を刻んだとある。



加藤神社「錦山神祠開建之碑」

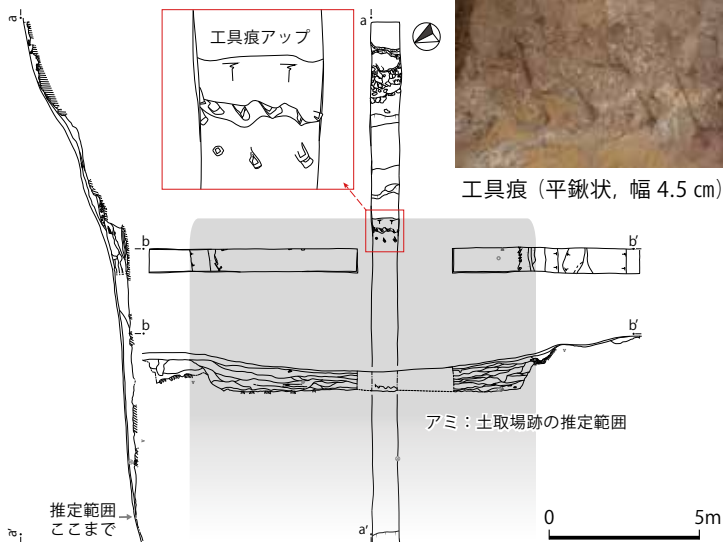
※明治8年銘。碑の撰文は熊本鎮台長官 谷干城の師、最晩年の安井息軒である。



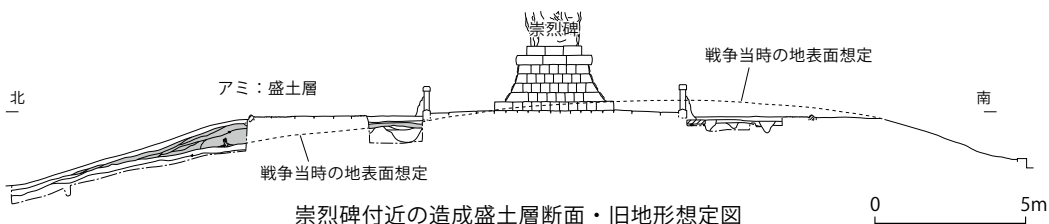
土取場跡・造成盛土の推定範囲



トレンチ出土の石灰岩片
※建設時に現地で微調整した。



土取場跡実測図



崇烈碑付近の造成盛土層断面・旧地形想定図

崇烈碑建設時の造成

崇烈碑周辺のトレンチ調査により、碑の南側を削平し、北・西側を盛土していることが判明した。旧地形が馬背状であったものを、碑建設のため平坦に造成したと考えられる。盛土層は最大厚七二cmで、碑を現地で組上げる際に微調整した際の石灰岩碎片が出土している。この盛土の採掘場が土取場跡と考えられる。南北十一・四五m、東西推定九・九mの掘り込みで、地山は盛土層と同質である。壁の下位には、掘削の際のものと思われる工具痕が残っている。

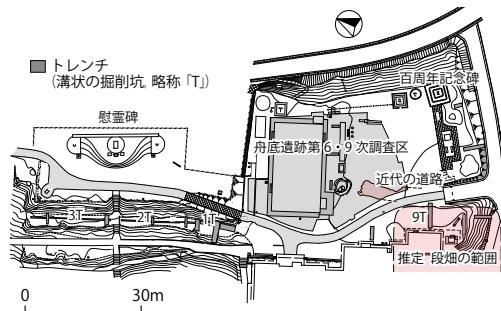


工具痕（平鋸状、幅4.5cm）

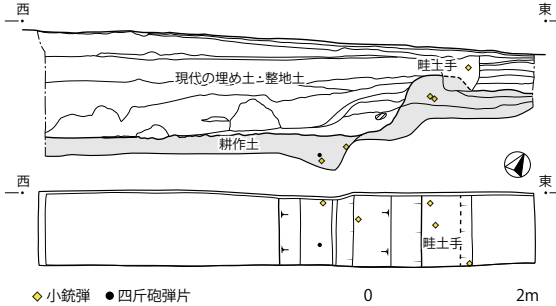
田原坂公園南半部の調査

慰霊碑「西南役戦没者慰霊之碑」や田原坂資料館があり、公園化が進んでいる田原坂公園南半部。造成前の旧地形は平坦面の少ない馬背状の丘陵地で、ここにも薩摩軍陣地が置かれた。眼下に開けた支谷を駆け上がったてくる政府軍を正面から攻撃でき、また、二俣台地の政府軍拠点を西方正面に望む適地である反面、政府軍からも良く目視できるため、格好の攻撃目標ともなった。

段畑を利用した陣地



田原坂公園南半部調査地全体図



9トレンチ実測図

南西側に設けた九トレンチと周辺のトレンチにおいて現代に埋められた段畑が検出され、九トレンチからは畑の区画境の段差と底部幅八四cm、高さ二〇cmの畦土手も認められた。

○この畦土手は南北方向に延びており、本調査に先行して実施した舟底遺跡第六・九次調査で検出された近代の道路跡と並行すると考えられる。

○畦土手や畑境の壁面から小銃弾五発・四斤砲弾片一点が出土した。幅狭なトレンチにしては密度が高い。激しい攻撃を受けたためと考えられる。

以上から、この場所には段畑と畦土手を利用した胸壁とし、その背後に南北に行き来ができる道を備えた陣地が存在したと考えられる。

明治四十二年刊の記録『西南記傳』に、これを傍証する記述がある。

「坂上は田疇の中に在りて薩軍之に據り、天險を補ふに人工を以てし、堡壘基布随意…而も其構造たる何れも強硬断面…」※「田疇」は田畑の畦道



9トレンチ出土小銃弾

9トレンチ出土四斤砲弾片

※四斤砲弾片写真の上は出土時の状況。下は錆を除去した後、アクリル樹脂を塗布して表層を強化し、錆の進行を遅らせる措置をした状況。



9トレンチ遺物出土状況 (西から)
※四角：小銃弾、丸：四斤砲弾片

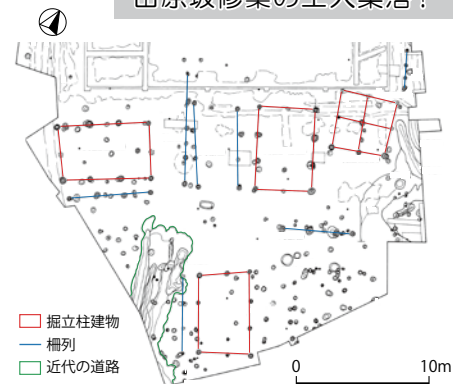


1～3トレンチの調査
※地元で塹壕跡と伝わる慰霊碑下の園路に設けたトレンチ調査。公園造成による削平を受け、遺構は検出されなかったが、西側に落ちる旧地形が確認された。



出土した火鉢 (暖房具) 片

田原坂修築の工人集落?



舟底遺跡第6・9次調査区主要部 遺構配置図
※平成27年にリニューアル開館した田原坂資料館建設に伴う発掘調査。

公園南半部の調査で主に検出されたのは、戦国時代・江戸時代初期の資料である。

掘立柱建物・柵列などが検出されたが、極短期間の造営とみられる。

この時期は、各地で加藤清正による軍事道路建設が進められており、田原坂修築における工人集落(飯場)の可能性もある。



「田原坂の戦い」の戦場となった熊本市と玉名郡玉東町はともに西南戦争遺跡の保護と活用に取り組んでいます。



西南戦争遺跡の政府軍拠点



政府軍瓜生田砲台跡上空から豊岡台地北半を望む



政府軍攻撃の基点となった「豊岡の眼鏡橋」

【表紙】

3月9日、雨。洲本珉平と豊島玄之助。瀬戸内の島嶼部出身の二人には、3月の雨は珍しい。彼らが所属する大阪鎮台第8連隊第2大隊は二俣五郎山の攻撃にあたった。降りしきる雨のなか、薩摩兵との攻防は果てしなく続く。



熊本市田原坂西南戦争資料館

利用案内

- 開館時間 9:00 ~ 17:00 (入館は 16:30 まで)
 - 入館料
 - 一般 (高校生以上) 個人 300 円 団体 (20 名以上) 240 円
 - 小・中学生 個人 100 円 団体 (20 名以上) 80 円
 - 休館日 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日まで
- ただし乳幼児、障害者手帳をお持ちの方、熊本市・鹿児島市・福岡市・北九州市に居住する 65 歳以上の方 (証明できるものを提示) と同市内の小・中学生 (名札か生徒手帳提示) 等の入場は無料です。



お問い合わせ

熊本市文化財課植木分室

〒 861-0195 熊本市北区植木町岩野 238 番地 1

☎ 096-272-0551

熊本市田原坂西南戦争資料館

〒 861-0163 熊本市北区植木町豊岡 858 番地 1

☎ 096-272-4982

